

婦人のための情報誌

7号

ねとあく



静岡県

特集

女性の就労について

◇婦人の就労……………

◇企業は働きたい主婦に何を求めるか……………

◇男女雇用機会均等法について……………

◇情報コーナー……………

◇女性の就労と課題……………

ティータイム

はじめまして

◇トップインタビュー

◇グループ情報

海外スポット「ナイロビのNGOフォーラム」に参加して

今年は「国連婦人の十年」最終年

こだま・読者の声 本の紹介

編集員紹介・あとがき

16

15

14

13

10

10

9

目

次

働く女性のいま・みらい

女性の就労に対する様々な論議が社会のあらゆるレベルで、いろいろな角度から盛んになつて久しい。しかし、こと男性の就労となることになると論議は少ない。

生き方の選択が一本道しかない男性と比べて、女性にはいくつかのライフスタイルが選択可能である。その可能性ゆえに、その選択したスタイルによっては、論議を呼ぶのである。

長い間、近代日本に根づいてきた「男は外、女は内」「男は仕事、女は家庭」という価値観が変つてきているという点では、誰も異論をはさまない。

しかし、どこまで変えるべきかという点では、本根と建前が交錯して各人各様である。その様々な意識が企業において、家庭において、複雑にからみあつてている。

今、情報化、高齢化、国際化は社会の潮流である。人々の意識・価値観の多様化もすっかり定着した觀がある。こうした社会変化の文脈を的確にたどるならば、女性労働の拡大もまた、所与の必然である。

これらを前提として、女性も男性も、暮らしやすい社会を創つていくためには、何が必要なのか、皆さまとともに考えていただきたいと思う。

「特別寄稿」

婦人の就労

弁護士　澤口　喜代子

今年八月、日本リクルートセンターがまとめた「王婦の意識調査」(対象は首都圏在住の30~49歳の主婦)によると、このうち就労主婦59%、専業主婦41%において、専業主婦で就業を希望している者は48%で、ほぼ二人に一人の割合で就労の希望を持っているという結果がでている。

昭和五十九年度の「労働力調査」によれば、働く女性は約二三〇〇万人、このうち雇用者は約一五〇〇万人であり、また雇用者の約六割が有配偶者となつてている。

現代のように、家事の省力化、外部化が進み、子供の数の減少により早くから子供から手が離れること、寿命の大�な伸び、高学歴化などを考えれば、今後ますます婦人の就労、社会進出が進むことは歴史的な必然と思われる。

かつて、婦人が就労することにより鍵つ子、非行の問題などが取りあげられ、消極的側面として種々問題となつたが、今ではあまりとりあげられるようなこともなくなってきた。働く婦人が増加し、働くことが当然のように思われて

特集 女性の就労について



▲婦人の問題を考える県会議で、女性の就労について語り合う策定委員の先生方と参加者



▲就労中の婦人

くる中で生じた変化といえるだろう。

しかし、婦人の就労には様々な困難が伴っている。まわりの人が働いているから自分も働くというような安易な考えではなく、働くことの意義をしつかりふまえ、強い決意をもつと共に、そのため家族間での理解を得ることが必要である。家族との深いきずなで結ばれ、家事、育事の分担、協力を得て、子供も母親の就労を誇りとし、家事もすんなり手伝うような家庭をつくりあげていくことが求められる。

弁護士として婦人にまつわる様々な相談をうける。最近はふがい

ない男性が増えてきたな、というのが実感であるが、これは女性弁護士としての偏見であるかもしれないが――。

婦人の就労の問題で最もショックを受けたケースに次のようなものがあった。

その女性は、大卒でもなく、キャリアウーマンでもない普通の真面目に働く女性であり、上司から昇格試験をうけたらどうかと勧められて、終業後、男子従業員と共に昇格試験のための勉強の指導をうけることになり、遅い帰宅が続いたところ、夫から家をしめ出さ

れ、ついには離婚を求められ、結局、子供もおいて離婚に踏みきらざるをえなくなってしまった。

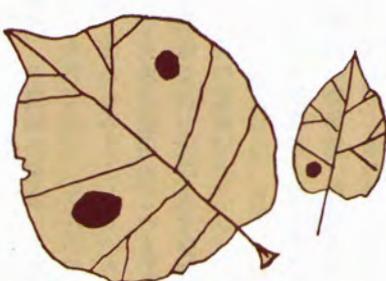
ごく普通の婦人労働者がこつこつ働き続け、眞面目に生き、上司からも仕事ぶりを認められるまでになりながら家庭の幸福を失わざるをえなかつたというこのケースが婦人の就労の困難性を象徴しているように思われた。

深い愛情で結ばれた家族を基盤として、男女がともに自己の能力を発揮し社会的に有用な存在として人生をまつとうすることの出来る社会でありたいものである。

筆者プロフィール

昭和十八年 挂川市生まれ
静岡県総合計画審議会委員
「婦人のための静岡県計画」

(仮称)策定委員



座談会

60.8月 西武百貨店静岡店で

—企業は働きたい主婦に何を求めるか—

西武百貨店の場合

—出席者—

松原昭治さん

西武百貨店 静岡店
総務部長

影山貞子さん

西武百貨店 静岡店
人事第一係長

山本直美さん

西武百貨店 静岡店
人事第一係長
再就職を考えている



向って左より影山さん、松原さん、山本さん

昭和58年の総理府の「婦人の就業調査」の中で、今後の就業意向についてみると、20歳～59歳の女子の無職者の約半数が「職業を持ちたい」と答えています。女性の社会参加が進む中で、主婦の再就職の実情はどうなっているのでしょうか。

子育ても一段落し、仕事をとおしての自己実現の道を模索している主婦にとって、企業の考え方は少なからず参考になると思います。

女性の能力活用という点では、キャスト制度やライセンス制度などを取り入れ、最先端をいく西武百貨店をお訪ねしてみました。

西武百貨店静岡店総務部長の松原昭治さん、人事第一係長の影山貞子さん、主婦で就職を希望の山本直美さん（静岡市）の三人にご出席いただき編集員沢辺の司会で「主婦の再就職・女性と仕事」について話し合つてみました。

松原百貨店の場合、お客様の八割が女性なので、女性の感性で売場を作るということいろいろな形で女性を活用しています。西武百貨店では、次のような制度を導入しています。

キャスト制度は、働きたい人の希望職種、勤務地、勤務条件等を登録しておき、会社側の必要な時に面接、試験をした上で採用していく。

ライセンス制度は、満6年以上勤務して退職した場合、本人が希望するとライセンスが与えられ、再雇用の機会が与えられる。

こうした制度を作る時、社会の高齢化、女性の社会進出、メカトロ化（機械の中にコンピューターなどを内蔵して機械が自動的に動く機能をもたらすこと）という時代の変化を基本的なところでおさえ、どのように対応するかを考えています。再就職に関しては、女性の寿命が延びて社会進出が盛んになる一方、メカトロ化による省力化がどんどん進んで、労働市場は狭められ、自己実現ができるような仕事はなかなかない。しかも、メカトロ化が進んで、かなりの部分、機械がやつてしまふためそれに対

司会　ここ数年四年制女子大学生の就職難がいわれたり、「男女雇用機会均等法（略称）」が成立して、女性が働くことに関心が高まっています。子育て後の主婦の再就職希望が増えているわけですが、企業としてはいかがですか。

司会　ここ数年四年制女子大学生の就職難がいわれたり、「男女雇用機会均等法（略称）」が成立して、女性が働くことに関心が高まっています。子育て後の主婦の再就職希望が増えているわけですが、企業としてはいかがですか。

特集 女性の就労について

応していかなければならない。

女性が働く時、(一)働く目的をし

つかり持つ。それないと長続き

しないし、企業の求めるものと合

致しない。(二)家庭機能の中での犠

牲は出てくるはずでどこかで線を

引いて割り切らないと職場での存

在価値はない。(三)時代の変化につ

いていくため新聞をしつかり読む

などして、政治や経済の流れをつかむことも大切だと思う。

司会 山本さんは、仕事を探して

いても実際に働く場が見つからな

いのは何が障害となっていると思

いますか。

山本 やはり家族の生活に合わせて、日曜、祭日に休みのとれる職場というとなかなかありません。そこまでの犠牲を払つて働くことは考えていませんので。

司会 西武百貨店の場合、子供がいる女子社員は、子育てなどをどのようにしてていますか。

影山 人それですが、お年寄がいらっしゃるとか、保育所等に預けている方も大勢います。子供と接する時間ができるだけつくるように工夫しているようです。

司会 女子社員の結婚退職は多いですか。

松原 昭和四十五年には女子の退職率は二割。現在は一割です。そ

して「結婚でやめる」から「子供を産むまで」、そして「子供を産んでも勤める」と、退職の時期が変つてきています。

そして、女性の約四分の一の人が自分の能力を生かして、仕事のポストもどんどん上がつてきています。西武百貨店全店で女性管理職が四百人います。

司会 山本さんはこれから仕事をつく場合、パートでもいいとお考えですか。

山本 今年の二月までパートで働いていましたが、やめてからパートの働き方が果してよかつたのか

など考えています。その仕事はかなり私に任せてもらえた部分がありましたが、働く意義を持つてないなどうしても歯車の一部という感じがします。かなりの犠牲を払うわけですから、それに見合うだけの魅力ある仕事でないと続けられないですね。やはりフルタイ

司会 採用時の資格要件によく年齢の制限があるんですが、人によって能力が違いますから、年齢で制限してしまうのはどうかと思いますが……。

松原 だから、「私は四十二歳だけどころいうことができる。役に立つはずだ」と主張して欲しいのです。

影山 当店では、職種によつて年齢制限がある場合もあるし、ない場合もあります。たとえば、婦人ヤングの売場だつたら制限しています。

司会 資格の問題ですが、主婦が再就職する場合、まず何か資格を取つてからでないと雇つてもらえないじゃないかと思いますが。

松原 あまり資格は必要ないと思います。専門学校などで学んできただことが即、実務ではなかなか通用しませんね。当社では経験のある人の方が力を出しています。それでライセンス制度を設けています。

司会 責任があり、やりがいのある仕事に就きたいと考えている女性が多いわけですが、影山さんは係長というポストにつかれて、やはり励みになられたでしようね。

司会 責任があり、やりがいのある仕事に就きたいと考えている女性が多いわけですが、影山さんは係長なら男性にはない管理ができるという面もあるので、まだまだ登用できる部分は多いですね。

女性の中でも女だからということで、一步退く生き方が減つてきていますね。今後、仕事をする上で男女の差別がなくなつていくと、逆に女性の甘えが許されなくなるので、その方が厳しいという感じがしています。

司会 西武百貨店では女性の雇用に対する前向きですね。一般的に

は、一度退職してしまつと再雇用の機会はなかなか開かれていないのが実情です。